

リウマチが心配な方・リウマチでお悩みの方へ ②

皆さん、こんにちは!非常勤医として第1・3・5木曜日の外来を担当している仲村一郎と申します。毎週火曜日の外来を担当している伊藤勝己医師とともに、湯河原厚生年金病院リウマチ科から聖隷沼津病院の外来のお手伝いに来ております。(前号に引き続き、リウマチに関して患者さんから受けた質問をQ&A形式でご紹介いたします。)

Q5「リウマチのお薬を処方されたが、薬局の人に『これはステロイドといって強い薬だよ』と言われて心配になりました。飲んで大丈夫でしょうか?」

リウマチの薬物療法に関してよく聞かれるご質問です。リウマチの飲み薬は大きく分けて3種類あります。

お尋ねの「ステロイド」(プレドニゾロン、プレドニン、レダコート、メドロールといったお薬)、「痛み止め(抗炎症薬)」(ロキソニン、ボルタレン、セレコックス、モービックといったお薬)、それに「抗リウマチ薬」(リマチル、アザルフィジン、リウマトレックス、メトレート、アラバといったお薬)です。ひとりひとりのリウマチ患者さんに合わせて、これら3種類のお薬を組み合わせ使います。もちろん治療の初期段階でリウマチの具合が悪ければ少量のステロイド剤を使うこともあります。お薬の効果と副作用の説明を十分に受けて、納得してお薬を飲むことが大切です。リウマチの具合がよくなってくればお薬の量や種類もだんだん減ってきます。

Q6「生物学的製剤について教えてください。」

生物学的製剤とは、「体の中のある特定の分子を標的とした新しい治療薬」です、というと少し難しく聞こえるかもしれませんが。しかし実はその原理は案外簡単なのです。

例えば皆さんがよくご存知の破傷風という病気、これは破傷風菌が作り出す破傷風毒素が原因で、放っておけば死に至る恐ろしい病気です。この場合、破傷風毒素に対する血清(抗体)を投与します。血清(抗体)は毒素とだけ結合してその効果を打ち消し、その結果病気が治るといわけです。

リウマチの生物学的製剤もこれとほぼ同じ理屈です。リウマチの患者さんの体内では「TNFアルファ」や「インターロイキン6」といった分子が多く作られているということがわかっています。そこでこれらに対する抗体を作って投与すれば、リウマチが軽くなるのではないかと考え方です。

現在日本で使用できるリウマチに対する生物学的製剤は5つです。「TNFアルファ」を標的とした治療薬として「レミケード」「エンブレル」「ヒュミラ」の3つ、「インターロイキン6」を標的としたものとして「アクテムラ」、T細胞という免疫をつかさどる細胞を直接おさえる「オレンシア」があります。当院では、この中で「エンブレル」という皮下注射製剤(慣れてきたらご自宅でご自身で注射可能なお薬)を用いています。このお薬でもなおリウマチがうまく落ち着かない方には、湯河原厚生年金病院に短期的に通院していただいて、その他のお薬を使ってリウマチを治療しております。

Q7「手術が必要」といわれました。手術は怖いのですがどうすればいいのでしょうか?」

確かに手術を受けることは怖いですね。お気持ちはよくわかります。世の中にはいろいろな考え方のお医者さんがいます。ある先生は「手術は絶対やめなさい」と言うし、別の先生は初めて会ったその日に「これは手術したほうがいいですね」と言います。どちらが正しいのでしょうか?残念ながら答えはありま

整形外科 仲村 一郎



せん。時と場合によって手術を選択することが正しい場合もあれば、手術をしない場合もあります。

では、患者さんの立場ではどう理解すればいいのでしょうか?私たちはこう考えています。「リウマチの治療においてお薬と手術は車の両輪です。どちらか一方だけの治療では必ず行き詰ってしまう」と。理想的なリウマチ専門医とは、お薬による治療と手術とを両方とも上手に行うことができる医師と考えています。

適切な時期に適切な手術を行うことはリウマチ患者さんの生活レベルを飛躍的に向上させます。1年かかって手術を決心した患者さんが、その後「先生の言うとおりに早く手術を受けていればよかった」と嬉しそうにおっしゃることはよくあります。逆に「今手術のやり時ですよ。でないと車椅子の生活になってしまいますよ」とお話しした患者さんが、3年後に「先生の言うとおりに歩けなくなったから手術してほしい」と外来にやってくることもあります。いずれにしても手術は一大決心、とにかく信頼できる先生とよくお話しした上に決心しましょう。

現在、私たちは湯河原と沼津の2つの病院で700名を超えるリウマチ患者さんの治療にあたっています。まだまだたくさんのリウマチに関する疑問、質問がおりかと思えます。さらに詳しい話をお聞きになりたい方は、是非私たちリウマチ専門医をお訪ねください。お待ちしております。



整形外科・リウマチ担当医
毎週火曜日AM:
伊藤勝己医師
第1・3・5木曜日AM:
仲村一郎医師

～第6回市民公開講座を開催します～

当院では、市民の皆さまへの情報発信と疾病に関する知識の向上を目的として、毎年市民公開講座を開催しており、今回で6回目を迎えました。

事前申込み不要・参加費無料ですので、お誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。

テーマ「最新のがん治療について」

日時	2011年11月19日(土) 14:00～16:00 (13:30開場)
場所	静岡新聞社・静岡放送 サンフロントビル9F ミーティングホール(沼津市魚町 御成橋 南側) (駐車場がありませんので、公共機関を利用の上ご来場ください)
講師	佐々木 康綱先生 (埼玉医科大学 国際医療センター 腫瘍内科 教授)
座長	大澤 浩一郎(聖隷沼津病院 副院長)
参加費	無料(事前の申込みは不要です)
主催	財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津病院
共催	聖隷沼津病院院内患者会「おしゃべり会」 NPO法人 がん患者団体支援機構
後援	沼津市・沼津市教育委員会 沼津医師会・静岡新聞社・静岡放送



～講師プロフィール～

医学博士・佐々木 康綱(ささき やすつな)先生

埼玉医科大学 国際医療センター 腫瘍内科 教授
埼玉医科大学 トランスレーショナル・センター部門長
通院治療センター長

昭和大学医学部卒業。
昭和大学、国立がんセンター病院、米国メリーランド州立大学客員研究員、国立がんセンター東病院勤務を経て、現職。